

再認識された税金の役割

文京区立第六中学校 3年 前田 雄登

今年、世界を襲った新型コロナウイルス感染症は、世界全土で二千三百万人が感染し、死亡者も八十万人を超えようとする大災害となった。日本でも約六万人が感染しており、学校が三ヶ月以上も休校になったり、緊急事態宣言が出され、多くの飲食店に休業要請が出されたりする等、全く予測することができない事態となった。私も、感染しないように外に出るときは必ずマスクをする、手洗いうがいをしないと食べ物を口にしない等、細心の注意を払いながら生活している。

このような中、全ての国民に対し、一人十万円の特例定額給付金が支給された。これは総額約十三兆円という金額だ。またその他にも学校に行けなかった小中学生のために、一人一台のパソコンの整備が約二千三百億円かけて予定より早く進むことになった。その他、企業への持続化給付金等、新型コロナウイルス感染症対応のための令和二年度第二次補正予算は、総額約三十二兆円という莫大な金額が計上されている。

そして、この予算のほとんどが税金でまかなわれている。私は、今回の新型コロナウイルス感染症対応のための様々なニュースを見て、税金の役割を改めて知ることができた。普段から税金は、国民生活のために使われているということは知っていたが、その税金をどのように使うかについて国会で議論している内容を、テレビのニュースや新聞を読んでより深く理解することができた。

もう一つ知ったことは、税金には国税と地方税があり、地方税の使い方はそれぞれの地域によって違いがあるということである。実際に東京でも、独自の給付金を支給した区があり、正直うらやましく思った。しかし反対に、自分の区は学校にパソコンがすでにそろっていること等、他の区よりも優れているところもあり、それぞれの都道府県や市区町村で、それぞれの実態に応じて、税金をどのような分野に使うのかを考えて行っているということがよく分かった。

さらに、消費税十%を少しの間下げるべきではないかという議論もある。これについては、単純に考えると消費税は下がった方がよいと思うが、一方で国や都道府県・市区町村の貯金がほぼ底をついたという報道もあったので、今後のためには税金を払わなければならないとも思うので、難しい問題だと思った。

今回の新型コロナウイルス感染症は、税金の必要性和用途を考えるきっかけとなった。賛否が分かれた事もあったが、国民のためにこれからも真剣に議論して使ってほしいと思った。またそのためには、国民が税金をきちんと納めなければならない。

私はこれからも、税金について関心をもち、税金で作られたり、支給されたりしているものを大切に使うこと、そして大人になったらきちんと税金を納めることを強く決意した。